＜専　門　分　野＞

授業科目名	看護学概論Ⅰ		担当教員名	杉原　雅子（看護師）	
実施時期	1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	看護は、人間・健康・環境・看護を基本的概念としている。実践科学としての看護学及び看護の機能や看護者の役割の概要を理解するとともに看護の対象（人間）について健康観と関連付けて学ぶ。 本授業を通して ① 実践科学としての看護学及び看護の機能や看護者の役割の概要を理解する。 ② 健康と病気における安寧の促進、及び保健・医療・福祉システムについて理解する。 ③ 看護における法的側面・倫理的側面を理解する。 ④ 看護の対象を統合体として捉え、看護過程及び看護援助の役割と基本的援助技術について理解する。				
到達目標	① 看護の定義、役割と機能、対象について説明できる。 ② 健康のとらえ方の変遷が分かり、健康生活への影響要因、生活習慣、セルフケアの重要性について説明できる。 ③ 看護における倫理的側面について説明できる。 ④ 看護の展開における対象との関係性の形成、基盤となる思考過程、連携と協働の概要について説明できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容
1	看護実践の基礎	実践科学としての看護学及び看護の機能や看護者の役割の概要を理解する。	専門職としての看護師・看護の目的と役割・実践科学としての看護
2			看護実践のための教育準備・専門職としての看護組織・看護実践のための基準
3			看護の変遷と21世紀に求められる看護・国際看護・災害看護の基礎
4		健康と病気における安寧の促進に対する関りについて理解する。	健康、病気 ウェルネス（安寧）の定義健康と病気
5		保険・医療・福祉システムについて理解する。	保健・医療・福祉の概念・場のタイプ・保健・医療・福祉チーム ケア提供の経済・動向と課題
6		看護における法的側面について理解する。	法の概念・看護実践の職業的および法的規則・医療事故における法的責任・看護実践に影響を及ぼす法律
7		看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを理解する。	看護における倫理の必要性 看護倫理とは 道徳的ジレンマと倫理課題
8			倫理的課題への対応 倫理的看護実践を行うために必要なこと
9	看護の対象	看護の対象を統合体として理解できる。ストレスと適応について理解する。	統合体としての人間
10			個人、家族、コミュニティ、地域社会
11			健康障害をもつ対象の理解ストレスと適応

回数	単元	単元目標	授 業 内 容
12	ライフサイクルと健康	成長と発達の概念 エリクソンらの発達理論を理解する。	成長・発達の概念
13			小児期～成人期・老年期の概念
14	看護活動	看護過程及び看護援助の役割と基本的援助技術について理解する。	看護過程・看護ケア（看護援助）の基本的役割・基本的援助技術
15		評価（２時間）	
授業形態		講義	
評価方法		筆記試験（80%）　レポート（20%）	
テキスト		『ナーシング・グラフィカ　看護学概論』　メディカ出版 『看護職の基本的責務』日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン　『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 フローレンス・ナイチンゲール　『看護覚え書』　現代社	
参考図書		服部祥子　『生涯人間発達論』　医学書院	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">看護学概論Ⅱ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外部講師（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">人間実践の基盤となる人間関係成立のプロセスおよびコミュニケーションについて学び、看護実践への活用方法を習得する。また、看護実践を導く理論について学ぶ。
本授業を通して
① 基本的なコミュニケーション技術について理解する。
② 看護におけるコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。
③ 看護理論の基本概念を理解する。
④ 看護理論家とその理論を理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 基本的なコミュニケーション技術について説明できる。
② 看護におけるコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解し、活用できる。
③ 看護理論の基本概念について説明できる。
④ さまざまな看護理論を学び、看護実践に応用できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">コミュニケーション技術</td><td>コミュニケーションの概要を理解する。</td><td colspan="3">「コミュニケーション」とは何か</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="7">看護におけるコミュニケーションのための知識・技術・態度を習得する。</td><td colspan="3" rowspan="7">（1）コミュニケーションにおける影響因子
（2）コミュニケーション技術
（3）コミュニケーションと信頼関係
（4）コミュニケーション障害への対応
（5）プロセスレコード</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="2">看護理論の概要</td><td rowspan="2">看護理論の基本概念を理解する。</td><td colspan="3" rowspan="2">理論の定義・種類
看護理論の発達と看護理論の特徴</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="4">さまざまな看護理論</td><td rowspan="4">看護の実践にむけて、さまざまな看護理論を理解する。</td><td colspan="3" rowspan="4">（1）フローレンス・ナイチンゲール
（2）ヴァージニア　A.ヘンダーソン
（3）ヒルデガード　E・ペプロウ
（4）アーネスティン・ウィーデンバック
（5）ドロセア　E．オレム
（6）ジーン・ワトソン　　など</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（2時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社
『看護技術　プラクティス』学研メディカル秀潤社
『看護理論』南江堂</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">『看護職の基本的責務』日本看護協会出版会</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">基礎看護学方法論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外部講師（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">一般状態の観察、生命の徴候であるバイタルサインを測定することの意義を理解し基本的技術を習得する。フィジカルアセスメントの概念を理解し、適切な看護を提供するためのアセスメント技術を習得する。
本授業を通して
① ヘルスアセスメントの概念を理解する。
② バイタルサイン及びフィジカルアセスメントの意義と測定技術、それによって得られる客観的データについて理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの概念・基本について説明できる。
② バイタルサインの意義を理解し、基本的な測定方法を習得し活用できる。
③ フィジカルアセスメント意義を理解し、基本的なアセスメント技術を習得し活用できる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ヘルスアセスメント</td><td>ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念・基本を理解する。</td><td>ヘルスアセスメントの概念・基本知識
最初の視診と一般状態のアセスメント</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="5">バイタルサイン</td><td rowspan="5">バイタルサインの意義を理解し、基本的な測定技術を習得する。</td><td rowspan="3">一般状態のアセスメントとバイタルサイン
呼吸・体温・脈拍・血圧・意識状態</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td>【演習①】脈拍測定　血圧測定</td></tr>
<tr><td>6</td><td>【演習②】体温・脈拍・呼吸・血圧測定</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="8">フィジカルアセスメント</td><td rowspan="8">フィジカルアセスメントの意義を理解し、基本的なアセスメント技術を習得する。また、アセスメントする姿勢を身に付ける。</td><td>フィジカルアセスメントの必要性・視点
５つの基本技術（問診、視診、触診、打診、聴診）</td></tr>
<tr><td>8</td><td>フィジカルアセスメントテクニック
体表解剖・体表面の名称</td></tr>
<tr><td>9</td><td>系統別のアセスメントの視点（部分演習）：肺（呼吸器系）</td></tr>
<tr><td>10</td><td>系統別のアセスメントの視点（部分演習）：心臓（循環器系）中枢神経系</td></tr>
<tr><td>11</td><td>【演習③】体表解剖の確認、肝臓の大きさの測定（スクラッチテスト）
瞳孔の視診、中心静脈圧の測定</td></tr>
<tr><td>12</td><td>系統別のアセスメントの視点（部分演習）：消化器系　運動系</td></tr>
<tr><td>13</td><td>【演習④】 肺、心臓、腹部の聴診</td></tr>
<tr><td>14</td><td>【演習⑤】 体温・脈拍・呼吸・血圧測定／呼吸音・心音・腸音聴取</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="2">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="2">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="2">筆記試験（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="2">『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社
『新体系　看護学全書　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社
『看護技術　プラクティス』　学研メディカル秀潤社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="2">『基礎看護学　考える基礎看護技術Ⅰ　看護技術の基本』ヌーヴェルヒロカワ
山内豊明著『フィジカルアセスメント　ガイドブック』医学書院</td></tr>
</table>

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅱ		担当教員名	浄 聖　陽 子（看護師） 尾野　あゆ子（助産師）	
実 施 時 期	1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	日常生活行動について健康の保持・増進・回復との関連を確認し、看護技術に共通する基本概念を理解し、環境・感染予防への援助がその人の健康に役立つことを目指し、基本的な知識・技術を学ぶ。 本授業を通して ① 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。 ② 感染予防策の基本と看護師に必要な感染予防技術を習得する。				
到 達 目 標	① 環境にはどのような要素があるか悦明できる。 ② 病室における環境調整の方法について説明できる。 ③ ベッドメーキングの技術を習得し、活用できる。 ④ 感染予防策の基本を理解し、看護師に必要な感染予防技術を活用できる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1 2 3 4	快適な環境を作る技術	人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。	環境の諸要素とその調整 環境の意義、生活サイクル 病室と病床の環境調整　病室の環境調整、室内気候	浄聖
5 6 7 8			環境を整える技術演習 ベッドメーキング 【演習①】 三角・四角コーナーの作り方 【演習②】 クローズドベッド・オープンベッドの作成	
9	感染予防の技術	感染予防策の基本と看護師に必要な感染予防技術を習得する。	感染と感染予防策の基礎知識	尾野
10			感染予防における看護師の責務と役割	
11			感染源への対策	
12 13			感染経路への対策 人体の防御機能の増強に向けて	
14			【演習③】 感染予防：衛生的手洗い、滅菌手袋の装着、滅菌物の取り扱い方 清潔操作：個人防護用具の使用方法　着脱	
15			感染経路への対策	
16	評価（２時間）			

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%）
テキスト	『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社 『看護技術　プラクティス』学研メディカル秀潤社
参考図書	『基礎看護学　考える基礎看護技術Ⅰ　看護技術の基本』ヌーヴェルヒロカワ 『基礎看護学　考える基礎看護技術Ⅱ　看護技術の実際』ヌーヴェルヒロカワ 小松浩子・菱沼典子編『看護実践の根拠を問う』南江堂

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅲ		担当教員名	若林 理恵子（看護師） 石黒　範子　（看護師）	
実施時期	1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	日常生活行動について健康の保持・増進・回復との関連を確認し、食事・栄養、排泄への援助が、その人に役立つことを目指し、基本的な知識・技術を学ぶ。 本授業を通して ① 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法について看護の視点から考え、安全で効果的な援助方法を習得する。 ② 排尿・排便のメカニズム、意義を理解し、健康レベルに合わせた排泄の援助方法を習得する。				
到達目標	① 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法について看護の視点から考えることができる。 ② 安全で効果的な食事の援助方法を習得し、活用できる。 ③ 排尿・排便のメカニズム、意義を説明できる。 ④ 健康レベルに合わせた排泄の援助方法を習得し、活用できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1	食事・栄養の援助技術	健康レベルや食行動の自立度に応じた食事・栄養摂取方法について看護の視点から考え、安全で効果的な援助方法を習得する。	食事･栄養の意義	若林
2			食事に関する生理学的メカニズム、食事と栄養に関する基礎知識	
3			栄養状態のアセスメント　食事摂取基準　客観的指標 食事を阻害する要因	
4			食事･栄養に関する援助 ⑴ 経口栄養（咀嚼・嚥下・食行動制限）	
5			食事･栄養に関する援助 ⑵ 経腸栄養・経静脈栄養	
6			【演習①】経口摂取の援助	
7			【演習②】経腸栄養の援助：胃管チューブを使用した栄養摂取の援助	
8	排泄の援助技術	排尿・排便のメカニズム、意義を理解し、健康レベルに合わせた排泄の援助方法を習得する。	排尿･排便の意義、解剖生理学的メカニズム 排尿･排便のアセスメント、排泄障害の種類	石黒
9			排尿・排便の援助 自然排尿・自然排便を促す方法 ポータブルトイレ、トイレの援助方法 床上での排尿･排便の援助　おむつを用いた援助 膀胱留置カテーテルを用いた援助	
10				
11				
12			【演習③】床上排泄の援助（尿器・便器・おむつ）	
13			【演習④】導尿・膀胱留置カテーテルを使用した排泄の援助	
14			【演習⑤⑥】浣腸・陰部洗浄・おむつ交換	
15				
16		評価（２時間）		

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100％） 食事（50％）　排泄（50％）
テキスト	『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社 『看護技術　プラクティス』学研メディカル秀潤社
参考図書	『看護栄養学』医歯薬出版株式会社 小松浩子・菱沼典子編『看護実践の根拠を問う』南江堂 『看護形態機能学　生活行動からみるからだ』日本看護協会出版会

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅳ		担当教員名	橋本 武憲（看護師） 石黒 範子（看護師）	
実施時期	1 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	日常生活行動について健康の保持・増進・回復との関連を確認し、活動・休息、清潔への援助が、その人の健康に役立つことを目指し、基本的な知識・技術を学ぶ。 本授業を通して ① 人間にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な活動・休息のための援助方法を習得する。 ② 人間にとって清潔の意味を理解し、健康的な清潔を整えるための援助方法を習得する。				
到達目標	① 人間にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な活動・休息のための援助方法を習得し、活用できる。 ② 人間にとって清潔の意味を理解し、健康的な清潔を整えるための援助方法を習得し、活用できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1	活動・休息の援助技術	人間にとっての活動・休息の意味を理解し、健康的な活動・休息のための援助方法を習得する。	人間と運動	橋本
2			活動のアセスメント	
3			運動機能の維持、回復のための援助	
4			【演習①】　活動：ボディメカニクス・体位変換	
5			【演習②】　活動：移動・移送	
6			睡眠の意義・生理	
7			睡眠の障害とアセスメント睡眠の援助	
8	清潔・衣生活の援助技術	人間にとっての清潔・衣生活の意味を理解し、健康的な清潔・衣生活を整えるための援助方法を習得する。	清潔の意義、清潔援助方法の種類と選択	石黒
9			入浴、洗髪の意義と援助方法	
10			【演習③④】　清潔援助：洗髪	
11				
12			手浴、足浴、口腔ケアの意義と援助方法	
13			全身清拭、陰部洗浄の意義と援助方法 寝衣交換の目的と援助方法	
14			【演習⑤⑥】　清潔援助：全身清拭・寝衣交換	
15				
16		評価（2時間）		

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%） 活動・休息（50%）　清潔（50%）
テキスト	『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社 『看護技術　プラクティス』　学研メディカル秀潤社
参考図書	適宜紹介

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅴ		担当教員名	尾野　あゆ子（助産師）	
実施時期	1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	薬物療法の意義・目的および安全に与薬を行うシステムについて理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助方法を学ぶ。また、検査時の看護者の役割を理解し、援助技術を学ぶ。 本授業を通して ① 薬物療法の意義および薬物療法における看護の役割を理解する。 ② 安全に与薬を行なうシステムについて理解する。 ③ 薬物療法の具体的な援助方法を理解し、習得する。 ④ 検査の意義および看護職者の役割を理解し、検査時の援助方法を習得する。				
到達目標	① 薬物療法の意義および薬物療法における看護の役割について説明できる。 ② 安全に与薬を行なうシステムについて説明できる。 ③ 薬物療法の具体的な援助方法を習得し、活用できる。 ④ 検査の意義および看護職者の役割を理解し、検査時の援助方法を習得し活用できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容
1	与薬を安全かつ正確に行う技術	薬物療法の意義・目的を理解し、安全に行うシステムと看護師の役割を理解する。	薬物療法の理解、薬物療法の意義・目的、薬物の体内動態、薬物の作用、薬物療法に影響する因子、処方箋
2			薬物に関する法律、薬物の管理、薬物療法における看護の質保証と安全管理 対象者に対する事故防止対策、医療者自身の事故防止対策
3		薬物療法の具体的な援助方法を理解し、習得する。	薬物療法を受ける患者の援助、薬物の種類、アセスメント、一般的な与薬の援助法 直腸内与薬法、吸入法、経皮的与薬法、点眼法
4			注射法の基礎知識 注射法とは、注射法における看護師の役割、注射法を受ける患者の援助
5			注射法の種類別援助方法と技術① 注射法に使用する物品　注射法に共通する基本技術（準備・確認・片付け） 点滴静脈内注射の準備　輸血法
6			【演習①】点滴静脈内注射の準備、点滴刺入部の固定　輸液ポンプ操作
7			注射法の種類別援助方法と技術② 注射器への薬液の重墳　皮内注射　皮下注射　筋肉内注射
8			【演習②】注射器の無菌操作　薬液の吸い上げ
9			皮内注射・皮下注射・筋肉内注射の方法（部位選定と刺入方法）
10			【演習③】皮下注射　筋肉内注射（モデル人形使用）
11	検査を安全かつ正確に行う技術	検査の意義・目的を理解し、看護師の役割・検査時の援助方法を習得する。	検査の意義、検査における看護師の役割、検査の種類と実施時の注意点、身体計測
12			検査の方法 X線単純撮影、超音波検査、CT検査、内視鏡検査、心電図、 尿･便・喀痰検査、採血、穿刺法
13			【演習④⑤】 身体計測　静脈採血
14			
15		評価（2時間）	

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（80%）　レポート・授業態度（20%）
テキスト	『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社 『新体系　看護学全書　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社 『看護技術　プラクティス』学研メディカル秀潤社
参考図書	写真でわかる基礎看護技術①　インターメディカ 写真でわかる基礎看護技術②　インターメディカ

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅵ		担当教員名	石黒　範子（看護師） 外 部 講 師（看護師） 外 部 講 師（看護師）	
実 施 時 期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	呼吸・循環・体温を整える技術、皮膚・創傷を管理する技術、救急看護に必要な技術など診療に伴う援助技術を学ぶ。 本授業を通して ① 呼吸・循環・体温状態に応じた援助技術を習得する。 ② 皮膚・創傷の処置を必要とする対象の状態を理解し、創傷の状態に応じた援助技術を習得する。 ③ 救急看護に必要な知識を習得する。				
到 達 目 標	① 吸入・吸引における基礎知識と罨法の目的、定義及び効果と種類について説明できる。 ② 皮膚・創傷の処置を必要とする対象の状態を理解し、創傷の状態に応じた援助技術について説明できる。 ③ 救急看護に必要な知識を習得し、一次救命処置ができる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	呼吸・循環・体温を整える技術	呼吸・循環・体温の異常に応じた援助技術を習得する。	呼吸を楽にする技術 効率的な呼吸方法（呼吸の楽な体位　安楽な呼吸法） 痰を喀出させる方法	石黒
2			吸入の基礎知識 吸入の原理・目的、吸入による身体の影響と方法の選択 ネブライザーによる薬液吸入　酸素吸入	
3			吸引の基礎知識 吸引の意義、吸引部位と目的による身体の影響と方法の選択 吸引に関するアセスメント 気道分泌物の排出の援助 一時的気道内吸引　体位ドレナージ　スクイージング	
4				
5			【演習①】 ネブライザー吸入酸素吸入 一時的気道内吸引（口腔・鼻腔・気管内）	
6				
7			末梢循環促進の援助 体温管理・保温の援助 罨法の目的・定義、温度刺激の生体におよぼす影響 罨法の効果と種類およびアセスメント 罨法の援助方法（冷罨法　温罨法）	
8			【演習②】 冷罨法（氷枕）　温罨法（湯たんぽ）	
9	皮膚・創傷を管理する技術	皮膚・創傷の処理を必要とする対象の状態を理解し、創傷の状態に応じた援助技術を習得する。	皮膚・創傷を管理する技術　皮膚障害の種類　褥瘡	外部講師
10			創傷治癒の基本過程・形式・方法 援助方法の選択　ガーゼ交換 包帯法（巻軸包帯　布帕包帯）　ドレッシング材の貼付	
11				
12			【演習③】 包帯法（巻軸包帯、布帕包帯を用いた方法）	石黒

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th><th>担当</th></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="3">救急看護に必要な技術</td><td rowspan="3">救急看護に必要な知識を習得する。</td><td rowspan="2">救急時における迅速な介入の必要性
一次救命処置と二次救命処置　気道確保　胸骨圧迫
人口呼吸　除細動、ＡＥＤ　救急カート
ＭＥ機器（輸液ポンプ　シリンジポンプ）</td><td rowspan="3">外部講師</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td>【演習④】
一次救命処置</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="3">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="3">講義演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価形態</td><td colspan="3">筆記試験（100%）
呼吸・循環・体温を整える技術皮膚(60%)・創傷を管理する技術(20%)
救急看護に必要な技術(20%)</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="3">『新体系　看護学全書　基礎看護学2　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社
『新体系　看護学全書　基礎看護学3　基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社
『看護技術　プラクティス』　学研メディカル秀潤社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="3">『基礎看護学　考える基礎看護技術Ⅰ　看護技術の基本』　ヌーヴェルヒロカワ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">基礎看護学方法論Ⅶ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">浄聖　陽子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">看護実践に必要な看護過程の概要とその実践について理解し、対象者それぞれに応用できる問題解決能力を身につける。
本授業を通して
① 看護を科学的に展開するための思考のプロセスや方法について理解する。
② 看護の過程を具体的に思考・経験し、看護過程という問題解決技術の基礎的能力を養う。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 看護を科学的に展開するための思考のプロセスや方法について説明できる。
② 看護過程という問題解決技術を活用し、事例の看護過程展開ができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="5">看護の過程の概要</td><td rowspan="5">看護を科学的に展開するための思考やプロセスや方法について理解する。</td><td colspan="3">看護過程（看護過程とは　看護過程の構成要素）
アセスメント（アセスメントとは　アセスメントの技術）
ゴードンの機能的健康パターン</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">クリティカルシンキング（クリティカルシンキングとは）
情報の分析、解釈、推論
看護診断</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">看護問題
（看護問題とは、看護問題の種類、看護問題の表現、看護問題の優先順位）</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">看護計画立案（看護計画の立案とは、目標の設定）
具体的な活動計画（具体策）の立案
実施（記録）</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">評価（評価とは、評価のプロセス）
看護記録（ＰＯＳ：問題志向型システム）
看護要約（看護サマリー）</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="9">看護の過程の展開</td><td rowspan="9">看護の過程を具体的に思考・経験し、看護過程という問題解決技術を理解する。</td><td colspan="3">演習
事例：消化器症状をもつ患者</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3" rowspan="3">ゴードンの機能健康パターンを用いて情報整理と意味づけ</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3" rowspan="2">統合全体像（全体関連図、全体像の成文化）
患者の強み
目標の設定</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="3" rowspan="2">看護問題の設定
看護計画（短期目標・到達目標・期待される成果および具体的な看護活動）の立案</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="3">実施・評価（SOAP）</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（80%）　レポート（20%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『新体系　看護学全書　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ』メヂカルフレンド社
渡邊トシ子編『ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント』
ヌーヴェルヒロカワ</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	臨床看護総論Ⅰ		担当教員名	尾野　あゆ子（助産師） 橋 本　　武 憲（看護師）	
実 施 時 期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	健康障害をもつ対象を理解し、主要症状・治療処置別などの状態に応じて複数の看護技術を適用する基礎を学ぶ。 本授業を通して ① 看護の基盤は実践であることを理解し、専門職として対象に向き合うことに伴う看護の役割、責任について理解する。 ② 発達段階から各期の特徴を理解し、対象の健康レベルの変化に即した看護の視点を明らかにする。 ③ 健康障害時の主要症状の病態生理やメカニズムを理解し、症状の観察方法と看護を理解する。 ④ 治療・処置を受ける対象者への観察方法と看護を理解する。				
到 達 目 標	① 発達段階と発達課題および健康問題を通して、各期の特徴を説明できる。 ② 発達段階と健康レベルに共通した看護の視点を明らかにできる。 ③ 健康障害時の主要症状の病態生理やメカニズムを理解し、症状の観察方法と看護について説明できる。 ④ 治療・処置を受ける対象者への観察方法と看護について説明できる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	臨床看護の概論	専門職として、対象に向き合うことに伴う看護の役割・責任、看護の対象者を理解するための基盤を学び、健康上のニーズを理解する。	臨床看護とは	橋本
2			対象の理解 小児期（乳児期　幼児期　学童期　思春期） 成人期（青年期～成人前期～成人中期～成人後期） 老年期	
3				
4	経過別看護	健康状態の経過（急性期・回復期・慢性期・リハビリテーション期・終末期）に基づく看護を理解する。	疾病の経過と看護 急性期（周手術期）にある対象者の特徴、ニーズ、看護の基礎	
5			疾病の経過と看護 回復期・慢性期・リハビリテーション期にある対象者の特徴、ニーズ、看護の基礎	
6			疾病の経過と看護 終末期にある対象者の特徴、ニーズ、看護の基礎	
7	症状別看護	代表的な症状について、症状のメカニズム・アセスメントの視点と看護援助の根拠を理解する。	呼吸障害のメカニズム、観察とアセスメントの視点、基本的な看護援助	尾野
8			循環障害のメカニズム、観察とアセスメントの視点、基本的な看護援助	
9			栄養代謝障害のメカニズム、観察とアセスメントの視点、基本的な看護援助	
10			排泄障害のメカニズム、観察とアセスメントの視点、基本的な看護援助	
11	治療処置別看護	代表的な治療について、その特徴と治療に伴う観察・アセスメント・看護について理解する。	治療・処置を受ける対象者への看護（目的） 薬物療法を受ける対象者への看護	
12			放射線療法を受ける対象者への看護	
13			手術療法、集中治療を受ける対象者への看護	

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
14			創傷処置を受ける対象者への看護 身体侵襲を伴う検査、治療を受ける対象者への看護	尾野
15			緩和医療	
16		評価（２時間）		
授業形態		講義　演習		
評価方法		筆記試験（100％）		
テキスト		『系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論』医学書院		
参考図書		『ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　基礎看護技術』メディカ出版 『看護技術　プラクティス』学研メディカル秀潤社		

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">臨床看護総論Ⅱ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">尾野　あゆ子（助産師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業の
概要と目的</td><td colspan="4">看護の基礎的知識や技術が実践の中でどのように統合されているか学んだ上で、応用力を養うために、事例を通してどのように看護を行うかを学ぶ。また、患者教育の在り方についても学ぶ。
本授業を通して
①セルフケア教育における看護師の役割と指導・教育の方法について理解する。
②事例を通して情報集収集から評価まで看護過程を展開し、対象にあった援助方法を習得する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">到 達 目 標</td><td colspan="4">①セルフケア教育における看護師の役割と指導・教育の方法について説明できる。
②看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="2">教育指導技術</td><td rowspan="2">セルフケア教育における看護師の役割と指導・教育の方法を理解する。</td><td colspan="3" rowspan="2">セルフケア教育の意義・目的
指導教育の場、形態、教材、指導案の基礎</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="8">事例展開</td><td rowspan="8">模擬事例を用いて情報収集から評価までの看護の過程について習得する。</td><td colspan="3">演習
事例
情報の整理
全体像の把握
看護上の問題
目標の設定
看護計画の立案</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3" rowspan="2">【演習①②】
事例をもとに対象にあった指導と実技演習
記録と評価</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3" rowspan="2">【演習③④】
事例をもとに対象にあった指導と実技演習
記録と評価</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3">要約の書き方</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（1時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（30%）　　レポート（70%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論』 医学書院
『新体系　看護学全書　基礎看護学2　基礎看護技術Ⅰ』 メヂカルフレンド社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">『ナーシング・グラフィカ　基礎看護学　基礎看護技術』 メディカ出版
『看護技術　プラクティス』 学研メディカル秀潤社</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">地域・在宅看護論概論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">石黒　範子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">高齢社会が進む中、自立した生活を送る高齢者も多い。地域で自立した生活を送る高齢者と交流することで、生活の中にある健康を維持するための看護の基本技術を学ぶ。
本授業を通して
① 地域生活の中に実践されている看護を理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 地域の特徴を説明できる。
② 自立した高齢者の特徴を説明できる。
③ 住民の健康を守る支援について説明できる。
④ 多様な生活の場を説明できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="4">地域の特徴</td><td rowspan="4">地域の特徴を説明できる</td><td colspan="3">地域の特徴を知る
人口動態　生活環境</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">市内散策・フィールド調査</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3" rowspan="2">市内散策・フィールド調査後の地図作り</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="3">住民の健康を守る支援</td><td rowspan="3">自立した高齢者の特徴を知り、健康を守る支援について説明できる</td><td colspan="3">住民の健康を守る支援
特定健診・保健指導・健康教育</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">介護予防教室　レクリエーション活動　サークル活動への参加</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">多様な生活の場　サービス付き高齢者向け住宅　生活支援ハウス</td></tr>
<tr><td colspan="2">8</td><td colspan="4">評価（1時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（70%）　レポート（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">各自治体のホームページ</td></tr>
</table>

授業科目名	地域・在宅看護論概論Ⅱ		担当教員名	外部講師（看護師）	
実施時期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	療養者と家族への看護を社会的条件、個々の生活条件の中で捉え、よりよい在宅看護のあり方を追求する。 本授業を通して ① 地域・在宅看護を提供する場を知り、看護の特徴を理解する。 ② 地域保健医療福祉の活動における地域・在宅看護の意義、アセスメントと評価およびシステムについて理解する。				
到達目標	① 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の特徴・意義を説明できる。 ② 看護をめぐる諸情勢の変化を学び、潜在・顕在する地域の人々の健康問題に対応した地域看護活動の概要と在宅看護との関連を説明できる。 ③ 地域・在宅看護における看護の特徴、継続看護について説明できる。 ④ 地域・在宅看護の関連専門職種と主な役割について説明できる。 ⑤ 家族の機能を理解し療養者とその家族への援助の方法を説明できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容
1	地域・在宅看護の基盤	地域の人々の健康問題に対応したシステムや地域看護活動の概要を理解する。	地域の特性
2			療養者と地域環境
3			人口・世帯に関する動向
4			地域・在宅看護の定義と位置づけ
5			地域・在宅看護の変遷
6			地域・在宅看護の動向
7			在宅療養における人権の尊重と権利性
8	地域・在宅看護を支えるしくみ	在宅看護の特徴、関連する法規や機関・専門職の役割を理解する。	地域・在宅看護に関する制度
9			地域包括システム
10			訪問看護の制度と機能
11	地域・在宅看護の個別支援	家族の機能を理解し療養者とその家族への援助の方法を理解する。	在宅看護過程
12			地域・在宅看護の対象となる個人の特性
13			家族の定義・機能・発達段階
14			療養者と家族に対する援助の過程
15			継続看護の機能と効果
16		評価（2時間）	

授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%）
テキスト	『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社 『国民衛生の動向』厚生統計協会
参考図書	適宜紹介

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">地域・在宅看護論方法論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">若林　理恵子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">在宅で療養する意味を理解し、社会資源や福祉用具を活用して個別の環境を生かした日常生活行動に対する援助の基本技術を学ぶ。
本授業を通して
① 在宅療養者の自立した生活行動を支援するための活動を理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 在宅で療養する意味を説明できる。
② 在宅看護における日常生活行動のアセスメントや援助の具体的方法を説明できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">在宅看護援助の基本技術</td><td rowspan="8">在宅で療養する意味を理解し、在宅看護における日常生活行動に対する援助の具体的方法を説明できる。</td><td colspan="3">在宅看護援助の基本　対象者の生活　生活様式と価値観</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">具体的な援助内容　在宅における面接技術</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">具体的な援助内容　食生活</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">具体的な援助内容　排泄</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">具体的な援助内容　清潔・衣生活</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">具体的な援助内容
住居　活動・睡眠　リハビリテーション</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3" rowspan="2">演習　日常生活動作に対する援助
事例に基づく援助計画立案、実施、評価</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（1時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（80%）　レポート（20%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ		担当教員名	外 部 講 師（看護師） 石黒　範子（看護師）	
実 施 時 期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	在宅療養者のニーズに応じた適切な看護を実践するための援助方法を学ぶ。 本授業を通して ① 在宅療養における技術の応用や医療技術を理解する。				
到 達 目 標	① 在宅療養者に多い疾患・機能障害を理解し、在宅で求められる技術の応用を説明できる。 ② 在宅において医療依存度の高い療養者の健康管理方法を説明できる。				

回数	単元	単元目標	授　業　内　容	担当
1	地域・在宅看護と健康障害	在宅療養者に多い疾患・機能障害を理解し、在宅で求められる技術の応用を説明できる。	地域看護における訪問看護	石黒
2			エンド・オブ・ライフケア	
3			難病ケア	
4			慢性疾患管理	
5			生活不活発病予防	
6			認知症ケア	
7			介護予防	
8	地域・在宅看護の援助技術・技法	在宅看護において医療依存度の高い療養者の健康管理方法を説明できる。	在宅酸素療法と看護	外部講師
9			経管栄養法と看護	
10			在宅における疼痛管理　緊急時のケア　褥瘡管理	
11			導尿・膀胱留置カテーテルと看護　ストーマと看護	石黒
12			在宅中心静脈栄養法と看護	
13			腹膜透析療法と看護	
14			在宅人工呼吸療法・ＮＰＰＶ	
15			在宅人工呼吸療法・ＴＰＰＶ	
16	評価（２時間）			

授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%）
テキスト	『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社
参考図書	適宜紹介

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">地域・在宅看護論方法論Ⅲ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">石黒　範子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">在宅看護の特徴を理解し、看護過程の展開について事例とともに学ぶ。
本授業を通して
① 在宅看護の特徴を捉えた看護過程を理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 在宅看護の特徴を説明できる。
② ロールプレイングにより看護の実際をイメージできる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">在宅看護の展開の基本技術</td><td rowspan="8">在宅看護の特徴を捉えた看護過程を説明できる。</td><td colspan="3">在宅看護過程の特徴</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3" rowspan="2">事例による看護過程の展開
情報（11の機能的健康パターンを用いて）のアセスメント</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">援助の方向性　療養者の全体像
療養者の持つ強み　長期目標</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3" rowspan="2">訪問看護計画の立案看護上の問題
期待される結果（短期目標）
期待される結果（短期目標）を達成するための具体的な活動計画の立案</td></tr>
<tr><td>6</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3" rowspan="2">演習　ロールプレイング　計画に基づいた援助</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（1時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">レポート（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅳ		担当教員名	石黒　範子（看護師） 外 部 講 師（地域連携室担当者） 田中　勝　（理学療法士） 外 部 講 師（介護福祉士）	
実 施 時 期	2 年	後 期	単位・時間数	1 単位	15 時間
授業の 概要と目的	地域の暮らしを支える職種は多様でそれぞれの役割がある。連携することで、質の高い医療が提供できることを学ぶ。 本授業を通して 対象を支援する職種の役割を理解し連携の方法を理解する。				
到 達 目 標	① 多職種の連携の意義・方法を説明できる。 ② 地域連携室の役割を説明できる。 ③ 事例を通して関わる職種の役割を知り、連携の実際を説明できる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	地域連携室・各職種の役割	地域医療連携室や各職種の役割を理解する。	多職種連携の意義・目的	石黒
2			地域医療連携室の役割　療養移行支援	外部講師
3			理学療法士の役割	田中
4			介護福祉士の役割	外部講師
5	多職種連携の実際	事例検討を通して多職種連携の実際を理解する。	演習の事前学習	石黒
6			演習　事例に基づく援助計画立案	
7				
8			演習のふり返り	
9	評価（1時間）			

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験(60%)　レポート(40%)
テキスト	『新体系　看護学全書　地域・在宅看護論』メヂカルフレンド社
参考図書	適宜紹介

授業科目名	成人看護学概論		担当教員名	浄聖　陽子（看護師）	
実施時期	1 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	成人期の身体的・精神的・社会的特徴を学び、現代の成人に生じやすい健康上の問題の予防と回復に向けての成人看護学の理念・目的・方法について理解する。また、成人期の健康問題を多角的にとらえる視点を学び、成人の生活や生き方、健康問題について理解する。健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方と方法を学ぶ。 本授業を通して ① 成人期にある人の特徴をふまえた成人看護学の理念、目的、方法について理解する。 ② 成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題を学ぶ。				
到達目標	① 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的側面と特徴を述べることができる。 ② 成人の健康の現状や動向について述べることができる。 ③ 成人の健康な生活を維持・増進するために必要な看護の役割について述べることができる。				

回数	単元	単元目標	授業内容
1	成人看護学の概念・成人期の理解	成人期の対象やその特徴を理解し、成人看護学の特性、保健・医療・福祉における動向と課題、看護の役割について理解する。	成人看護学の概念と構成
2			成人期にある人の特徴
3			成人の生活と健康
4			成人に特有な健康問題の特徴
5	成人への看護アプローチの基本	成人の特性や能力に応じたアプローチについて理解する。	成人の学習の特徴と看護アプローチ
6			
7			看護実践における倫理的判断意思決定支援・家族支援
8		成人期にある人を看護するための基本的なシステムについて学ぶ。	成人期に関わる社会のシステム
9			
10			ヘルスプロモーション
11	成人期にある人の健康	健康の定義を理解し、健康レベルに応じた対象の看護援助について理解する。	急激な身体侵襲により急性期にある対象の看護 障害への適応と社会復帰への看護 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 人生の終焉期の看護
12			
13			
14		継続看護と健康教育について理解し、対象のとらえ方や看護援助について学ぶ。	継続看護の重要性他職種との連携
15		評価（２時間）	

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%）
テキスト	『系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
参考図書	適宜紹介

授業科目名	成人看護学方法論Ⅰ		担当教員名	浄聖　陽子（看護師） 外 部 講 師（看護師） 外 部 講 師（看護師）	
実 施 時 期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	障害レベルにおいて身体への侵襲が大きい救急看護、クリティカルケア、周手術期看護を学ぶ。周手術期看護においては、生命活動の援助と共に、患者が自ら健康回復のために主体的に治療過程に参加し、術後の健康的な生活のため療養行動を構築していけるような援助を学ぶ。 本授業を通して ① 成人の急性期にある対象の特徴を理解し、障害がもたらす生命・生活への影響と各機能障害のある患者の看護について学ぶ。 ② クリティカルな状態にある成人の特徴的状態を身体・心理・社会的側面から統合して理解し、必要な看護について学ぶ。				
到 達 目 標	① 急性期看護の特性と患者の特徴、看護について述べることができる。 ② 周手術期の患者の特徴と看護について述べることができる。 ③ 麻酔・手術に伴う生体への侵襲を学び、早期回復のための看護の役割について述べることができる。 ④ 術式による手術看護の特徴を述べることができる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	急性看護の概念	急性期看護の概念を理解し、急性期特有の看護活動について理解する。	急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解 急性期にある人々への看護援助	浄聖
2				
3	クリティカルケアの特徴	クリティカルケアの概念、特徴をふまえた看護を理解する。	クリティカルケアを必要とする患者の看護 クリティカルケアを必要とする状態にある患者の看護	
4	救急看護の特徴	救急看護の概念、特徴をふまえた看護を理解する。	救急看護を受ける患者の特徴と理解 救急看護を受ける患者への看護 救急患者のアセスメント	
5	周手術期看護の概要	周手術期看護の考え方を理解し、特徴をとらえた看護援助を行う。	周手術期看護の考え方 周手術期にある人の特徴と理解	
6	周手術期看護の実際	周手術過程の特徴をふまえ、術前、術中、術後および合併症とその予防のための看護について理解する。	周手術過程に応じた看護術前の看護	
7			術中の看護	
8			術後の看護	
9				
10			術後合併症とその予防のための看護	
11			術後の継続看護	

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th><th>担当</th></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="4">周手術期看護の実際</td><td rowspan="4">術式による手術看護を理解する。</td><td>術式による特徴的な手術看護開頭術を受ける人の看護</td><td rowspan="2">外部講師</td></tr>
<tr><td>13</td><td>開胸術を受ける人の看護</td></tr>
<tr><td>14</td><td>開腹手術を受ける人の看護</td><td rowspan="2">外部講師</td></tr>
<tr><td>15</td><td>腹腔鏡下手術の看護・日帰り手術の看護</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="3">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="3">筆記試験（100%）
急性期・周手術期（70%）　術式による手術看護（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="3">『周手術期看護論』ヌーヴェルヒロカワ
『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="3">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">成人看護学方法論Ⅱ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">若林　理恵子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">主に慢性の経過をたどる疾患を持つ患者への看護を学ぶ。特に生活習慣に関連した健康障害、生活に関連したセルフケアの獲得に向けた援助を中心に学ぶ。
本授業を通して、
① 慢性期にある成人の対象の特徴を理解する。
② 障害による生命・生活への影響と機能障害に応じた看護を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 慢性的・長期的な経過をたどり、生活習慣の再構築が必要な患者の看護について述べることができる。
② 慢性的な健康障害のセルフケア獲得に向けた看護について述べることができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="2">慢性期看護の概念</td><td rowspan="2">慢性期看護の概念および慢性期にある人と看護援助を理解する。</td><td colspan="3" rowspan="2">慢性期看護の考え方
慢性期にある人の特徴と理解
慢性期にある人々への看護援助</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="12">慢性疾患に関連したセルフケア獲得が必要な患者の看護</td><td rowspan="12">機能障害や障害に伴う苦痛症状を、病態生理を踏まえて理解する。また、機能障害が患者におよぼす影響を理解し、セルフケア獲得に向けた看護援助について理解する。</td><td colspan="3">呼吸機能障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3" rowspan="2">循環機能障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">栄養摂取・消化機能障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">肝機能障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3" rowspan="2">糖代謝障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>9</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">造血機能障害をもつ患者の看護</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="3" rowspan="2">腎機能障害のある患者の看護</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="3">運動機能障害をもつ患者の看護</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="3">脳・神経機能障害をもつ患者の看護</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（2時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　成人看護学②～⑩』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">『成人看護学　慢性期看護論』ヌーヴェルヒロカワ</td></tr>
</table>

授業科目名	成人看護学方法論Ⅲ		担当教員名	外部講師（看護師） 外部講師（看護師） 外部講師（看護師） 外部講師（看護師）	
実施時期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の 概要と目的	成人で心身の機能・構造に何らかの障害があり、日々の生活や社会生活に支障をきたした人とその家族が、障害をかかえながら生活を再構築していくための看護について学ぶ。 本授業を通して ① 機能訓練等によって疾患の回復を促進し、生活を再構築するための看護の役割について学ぶ。				
到達目標	① 機能障害における、回復と自立を支える看護の役割について述べることができる。 ② 回復に向け、障害を抱えながら生活を再構築するための看護について述べることができる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1 2	障害を抱えながら生活を再構築するための看護	機能障害が患者におよぼす影響を理解し、回復と自立に向けた看護について学ぶ。	呼吸機能障害のある患者の回復と自立に向けた看護 事例を用いたグループワーク	大井
3 4			循環機能障害のある患者の回復と自立に向けた看護 事例を用いたグループワーク	向
5			脳・神経機能障害のある患者の回復と自立に向けた看護 観察とアセスメント 髄液検査時の援助　脳血管撮影時の援助	渡邉 絵
6			認知機能障害・コミュニケーション障害 意識障害・高次脳機能障害・失語症をもつ患者の回復と自立に向けた看護 事例を用いたグループワーク	
7 8			運動機能障害をもつ患者の回復と自立に向けた看護 脊髄損傷を負った人の看護 下肢切断を余儀なくされた患者の看護 パーキンソン病患者の看護 感覚器機能障害患者の回復と自立に向けた看護 視覚障害　聴覚障害　味覚・嗅覚障害	渡邊 翼
9			評価（１時間）	

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%） 呼吸器系（25%）　循環器系（25%）　脳神経系（25%）　運動器系（25%）
テキスト	『系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護』医学書院（呼吸器・循環器） 『系統看護学講座　専門分野　成人看護学３　循環器』医学書院（循環器） 『成人看護学　リハビリテーション看護論』ヌーヴェルヒロカワ（脳･神経、運動器）
参考図書	『成人看護学　慢性期看護論』ヌーヴェルヒロカワ　他、適宜紹介

授業科目名	成人看護学方法論Ⅳ		担当教員名	外部講師（看護師） 外部講師（看護師） 外部講師（看護師）	
実施時期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	放射線療法や化学療法など、がん患者への看護について学ぶ。人生の終焉において、身体的・精神的・社会的苦痛の緩和や、ともに生活する家族への支援を学ぶ。 本授業を通して ① 人生の終焉にある患者の各種症状とその治療や対処療法を学び、看護の役割と実際を理解する。 ② 我が国の死因順位第一位のがんについて、現状と問題、がん治療と看護について理解する。				
到達目標	① 人生の終焉における医療の現状および看護の役割について述べることができる。 ② 人生の終焉において、緩和ケアやともに生活する家族への看護について述べることができる。 ③ がん患者の現状と問題から、がん看護の役割について述べることができる。 ④ がん治療における看護師の役割と看護の実際について述べることができる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1	人生の終焉における看護の概念	人生の終焉の対象やその特徴を理解し、ターミナル期看護の　特性・倫理的課題を理解する。	人生の終焉における看護の考え方 人生の終焉とは 死をめぐる倫理的課題	外部講師
2				
3				
4			人生の終焉にある患者・家族の特徴と理解	
5	人生の終焉にある人への看護援助	人生の終焉にある人の状態の変化を理解しケアの実際を学ぶ。	人生の終焉にある患者・家族への看護援助	
6			心理的支援の方法 家族・遺族ケアの方法 医療従事者のストレスとその対処方法 実際の事例でグループワーク	
7				
8			緩和ケアにおける薬剤の活用とその副作用への対処方法 コミュニケーション技術とコミュニケーションの技法 コミュニケーションについてのロールプレイ	外部講師
9				
10	がん看護	がん患者の現状と問　題から、がん看護の役割について理解する。	がん患者の現状と特徴	
11	放射線治療と看護	放射線治療における看護師の役割と看護の実際を学ぶ。	放射線治療における患者の看護 精神面への援助 感染の予防　照射部位の清潔と保護	外部講師
12				

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th><th>担当</th></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="2">化学療法と看護</td><td rowspan="2">化学療法における看護師の役割と看護の実際を学ぶ。</td><td rowspan="2">化学療法を受ける患者の看護
心身の準備　副作用の予防
早期発見・対処
自己対処法の指導
心理的支援</td><td rowspan="3">外部講師</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td>がん治療と看護</td><td>がん治療における看護師の役割と看護の実際を学ぶ。</td><td>がん治療
造血幹細胞移植　免疫療法</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="3">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="3">筆記試験（100%）
人生の終焉にある人への看護（70%）　治療と看護（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="3">『成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論』ヌーヴェルヒロカワ</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="3">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">成人看護学方法論Ⅴ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">浄聖　陽子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">成人期における効果的な指導技術や看護問題の解決プロセスを理解する。成人の特徴を踏まえた看護過程を展開し、その学びを臨地実習につなげる。
本授業を通して
① 看護における指導の考え方と効果的な指導技術について学ぶ。
② 成人期の特徴をとらえた事例の看護過程の実際を学び、臨地実習への意欲を高める。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 看護における効果的な指導技術について理解し実践することができる。
② 看護問題の解決プロセスを理解し、指導場面の看護過程を展開することができる。
③ 健康障害を持つ成人の看護過程を展開することができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="6">健康学習を支援し成長を促す技術</td><td rowspan="6">看護における指導の考え方と効果的な指導技術について理解する。</td><td colspan="3">指導と学習</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">学習ニードのアセスメント
長期にわたり自己管理を要する対象への指導計画
指導媒体を作成（グループワーク）</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3" rowspan="2">指導計画と実施
指導計画についての学習
指導計画の作成
指導の実際
指導媒体を作成（グループワーク）</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">指導の評価
評価のプロセス
評価の方法
指導媒体を作成（グループワーク）</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">指導媒体の作成についての発表</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="7">成人看護の展開</td><td rowspan="7">成人の特性をふまえた看護過程を展開し、臨地実習につなげる。</td><td colspan="3" rowspan="2">「成人期における看護の展開」
情報の整理、アセスメント
看護過程の展開（個人ワーク）</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="3" rowspan="3">統合全体像、関連図
看護上の問題の明確化
看護過程の展開（個人ワーク）</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="3" rowspan="3">長期目標　短期目標の設定
具体的な活動（具体策）
看護過程の展開（個人ワーク）</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（50%）　レポート（50%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">資料配布</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">老年看護学概論</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">杉原　雅子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">ライフサイクルにおける老年期の身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ。
本授業を通して
① 超高齢社会の実態を概観し、保健医療チームの一員の立場から看護の役割を考察する。
人口の高齢化が地域社会におよぼす影響や高齢者を取り巻く保険・医療・福祉の動向と課題について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 高齢者の身体的・精神的・社会的、統計学的にみた高齢者の特徴を述べることができる。
② 超高齢社会におけるサポートシステムとその現状、権利擁護を理解できる。
③ 老年看護の役割を理解し高齢者への支援を考えることができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="5">老年期の理解</td><td rowspan="5">老年期の特徴を把握し、老年期の生き方を考察する。</td><td colspan="3">老いとは　加齢と老化</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3" rowspan="2">加齢に伴う諸機能の変化
呼吸・循環・消化／吸収・感覚／知覚
体力／運動機能・精神・心理</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3" rowspan="2">【演習】
高齢者疑似体験</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">高齢者と社会①</td><td rowspan="2">高齢社会の状況、特徴を理解する。</td><td colspan="3">高齢者の統計的輪郭</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">高齢者の健康状態</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="5">高齢者と社会②</td><td rowspan="5">高齢社会における社会保障、権利擁護を理解する。</td><td colspan="3">高齢者とソーシャルサポート
保健医療福祉制度の変遷</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="3">高齢者医療のしくみ
高齢者を支える職種と活動の多様化</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">介護保険制度</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="3">高齢社会における権利擁護
高齢者に対するスティグマと差別</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="3">高齢者虐待
身体への拘束
権利擁護のための制度</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="2">高齢者の健康状態と日常生活</td><td rowspan="2">高齢者の健康のあり方を理解し、日常生活行動の援助について考える。</td><td colspan="3">老年看護の成り立ち
老年看護の役割
老年看護の課題を考える</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="3">quality of life を高める日常生活援助
高齢者のリスクマネジメント</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験(80%)　レポート(20%)</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』　医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">『国民衛生の動向』　厚生労働統計協会他、適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	老年看護学方法論Ⅰ		担当教員名	橋本　武憲（看護師） 外 部 講 師（看護師）	
実 施 時 期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	対象が加齢に伴う心身の変化を受容し健やかな生活を送れるように QOL を目指した看護ケアを学ぶ。 本授業を通して ① 高齢者の加齢に伴う心身の変化や症状について病態生理学・疾病論と関連させ理解する。 ② 生活機能の評価と看護の役割を理解し意義のある生活をもたらす支援の在り方を学ぶ。				
到 達 目 標	① 加齢に伴う心身の変化や症状についてアセスメントすることができる。 ② 高齢者のＱＯＬを考慮しながら健康障害に対するケアを述べることができる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	身体の加齢変化とアセスメントと看護ケア	高齢者のアセスメント過程を理解する。加齢に伴う諸機能の変化を考慮した看護援助を理解する。	高齢者のフィジカルアセスメント 加齢に伴う身体の変化とアセスメントの視点 外皮系　循環器系　呼吸系　感覚器系	橋本
2			消化器系　内分泌系	
3			泌尿器系　運動器系	
4		高齢者の主要な症候を理解するとともに、アセスメント技法を理解する。	痛み　掻痒	
5			コミュニケーション	
6			脱水	
7			嘔吐　浮腫　倦怠感	
8	高齢者の生活機能を整える看護の展開	高齢者の生活機能を整える看護の展開について理解する。	高齢者の日常生活を支える基本動作と看護ケア 基本動作と環境アセスメントと看護ケア	外部講師
9			高齢者の食事と看護ケア	
10			高齢者の排泄と看護ケア	
11			高齢者の清潔と看護ケア	
12			高齢者の生活リズムと看護ケア	
13	健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開	健康逸脱からの回復と終末期を支える看護を理解する。	検査・処置を受ける高齢者への看護ケア 手術を受ける高齢者の看護	
14			終末期における看護ケア	
15			認知症について	
16		評価　（２時間）		

授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%） 身体の加齢変化とアセスメントと看護ケア（50%） 高齢者の生活機能を整える看護の展開（35%） 健康逸脱から回復と終末期を支える看護の展開（15%）
テキスト	『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』　医学書院 『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』　医学書院
参考図書	適宜紹介

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">老年看護学方法論Ⅱ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">橋本　武憲（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">高齢者の生活の援助する看護技術の基本や老年期に特有な疾患に伴う症状・障害に着目した看護技術を学ぶ。
本授業を通して
① 高齢者の生活に沿った看護技術の特徴を理解する。
② 老年期に特有な障害への看護技術を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 高齢者の生活を支援するための基本的な看護技術を習得する。
② 老年期に特有な疾患・症状・障害への看護技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td>高齢者への看護技術の特徴</td><td>高齢者への看護技術の特徴を理解する。</td><td colspan="3">高齢者への看護実践の基本、高齢者看護における看護技術の活用</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="7">高齢者の生活機能を整える看護の展開</td><td rowspan="7">高齢者の生活を援助するための基本的な看護技術を理解する。</td><td colspan="3">高齢者の生活機能と看護技術
① 食事　② 排泄　③ 衣　④ 清潔　⑤ 活動　⑥ 休息</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">コミュニケーションを高める看護技術
リラックスのための看護技術</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3" rowspan="2">【演習】
高齢者への排泄介助
(ポータブルトイレ使用時の援助、尿取りパッド・おむつ交換)</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3" rowspan="2">【演習】
高齢者への口腔ケア、義歯の取り扱い</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3">エンパワーメントを高めるための看護技術
家族への対応技術</td></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="6">高齢者に対する特有な障害への看護技術</td><td rowspan="6">高齢者に特有な障害への看護技術を理解する。</td><td colspan="3">感覚機能の変調に対する看護技術</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">循環機能の変調に対する看護技術</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="3">転倒・転落に対する看護技術</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="3">尿失禁に対する看護技術　尿路感染症感染予防に対する看護技術　肺炎</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="3">うつ症状・認知症に対する看護技術
対応の基本　日常生活面でのケア</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="3">寝たきりに対する看護技術
寝たきり予防　廃用症候群　ロコモティブシンドローム予防
日常生活の活性化　フレイル予防</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（80%）　レポート（20%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』医学書院
『老年看護技術　アセスメントのポイントとその根拠』ヌーヴェルヒロカワ
『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">老年看護学方法論Ⅲ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">橋本　武憲（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">老化による身体機能の低下が健康障害に及ぼす影響を理解し回復への援助を学び看護を実践するための基礎を学ぶ。
本授業を通して
① 老年期における健康障害をもつ高齢者やその家族への看護過程の展開ができる能力を養う。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 老年期における加齢・機能障害の特徴をとらえた看護過程の展開ができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">老年期看護の展開</td><td rowspan="8">加齢・機能障害をとらえた看護過程を理解する。</td><td colspan="3">老年期とは　老年期の理解認知症患者の看護</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">情報の分析</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">情報の分析　アセスメント　統合全体像</td></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="2">5</td><td colspan="3" rowspan="2">情報の分析　統合全体像　長期目標</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">看護上の問題　短期目標</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">看護計画の立案</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3">まとめ</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（１時間）　看護過程のレポート提出</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験(30%)　レポート（70%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　老年看護学』医学書院
『老年看護技術　アセスメントのポイントとその根拠』ヌーヴェルヒロカワ
『系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">小児看護学概論</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">若林　理恵子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>1 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">子どもの権利や小児看護理論、また親・家族に守られ子どもは成長・発達していくことを理解し、発達段階に応じた日常生活の援助について学ぶ。また、母子保健の動向を把握し、小児を保護する法律や保健対策・社会資源について学ぶ。
本授業を通して
① 小児看護の対象となる小児の特徴と看護の役割および小児看護に関する法律・施策を理解する。
② 小児の成長・発達を理解し、健康増進への方法および健康障害の予防に必要な知識を深める。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 小児看護の対象について説明できる。
② 小児保健医療の動向と健康の諸問題について説明できる。
③ 小児各期の成長発達の概念と成長発達に応じた養護について説明できる。
④ 小児看護の機能と役割および小児看護に関する法律・施策について説明できる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="3">小児看護の特徴と理念</td><td>小児看護の役割・小児看護の対象を理解し、小児看護の理念・目標を理解する。</td><td>小児看護の特徴
小児看護の対象／小児看護の目的／
小児看護の特徴と役割</td></tr>
<tr><td>2</td><td>小児看護の変遷と、小児看護における小児の権利と倫理について、小児看護に関連する理論について理解する。</td><td>小児看護の変遷とこれからの小児看護
小児看護における小児の権利と倫理
小児看護に関する理論</td></tr>
<tr><td>3</td><td>小児と家族に関する統計指標および小児看護の場について理解する。</td><td>小児と家族に関する統計指標</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>小児看護の場と特徴
病院／在宅・家庭／保育園／学校／地域社会</td></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="8">小児の成長・発達と養護</td><td rowspan="8">成長・発達の概念と小児各期の成長・発達の様相を理解し、発達段階に応じた養護について理解する。</td><td>小児の成長・発達
成長発達とは　成長・発達の進み方（一般原則）
心理社会的発達　免疫・反射
成長発達に影響する因子　成長発達の評価</td></tr>
<tr><td>5</td><td>小児各期の発達段階に応じた養護
新生児期の発達と養護</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="2">乳児期の発達と養護</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="2">幼児期の発達と養護</td></tr>
<tr><td>9</td></tr>
<tr><td>10</td><td>学童期の発達と養護</td></tr>
<tr><td>11</td><td>思春期・青年期の発達と養護</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="3">小児看護に関する法律、健康を支える施策・社会資源</td><td rowspan="3">小児と家族の健康を支える法律・施策・社会制度と社会資源について理解する。</td><td>小児看護の法律・施策
母子保健施策の変遷／児童福祉法／母子保健法
児童虐待の防止等に関する法律／
成育基本法／医療費の支援</td></tr>
<tr><td>13</td><td>子どもの健康増進に向けた施策
健やか親子　21　／食育基本法／
少子化社会対策基本法／次世代育成支援対策法／
学校保健安全法／子どもの教育と制度</td></tr>
<tr><td>14</td><td>健康増進のための社会資源
小児と家族の健康を支える社会資源
予防接種
子どもを守るためのセーフテイプロモーション</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="2">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="2">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="2">筆記試験（70%）　レポート（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="2">『系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論』医学書院
『国民衛生の動向』厚生労働統計協会</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="2">岡堂哲雄著『小児ケアのための発達臨床心理学』へるす出版
大塚香編集『小児看護　ビジュアルナーシング』学研
浅倉次男監修『子どもを理解する「こころ」・「からだ」・「行動」へのアプローチ』
へるす出版</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">小児看護学方法論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外 部 講 師（医師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">健康障害をもつ子どもの状態を理解するにあたり、小児期に多い健康障害・症状・治療について学ぶ。
本授業を通して
① 各疾患の病態・症状・診断・治療について理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 小児特有の健康問題・障害の病態生理・診断・治療について説明できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">小児特有の健康問題・障害</td><td rowspan="8">小児特有の健康問題・障害の病態生理・診断・治療について理解する。</td><td colspan="3">染色体異常・胎内環境により発生する先天性異常
染色体異常論　染色体異常各論
新生児の主な疾患
新生児の疾患　低出生体重児の疾患</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">代謝性疾患
新生児マス - スクリーニング　先天性代謝異常
内分泌疾患
下垂体疾患　甲状腺疾患　副甲状腺疾患　副腎疾患　性腺の異常
免疫・アレルギー疾患
免疫（生体防御）機構　免疫不全　アレルギーの発生機序
アレルギー疾患　膠原病</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">感染症
ウィルス感染症　細菌感染症　リッケチア感染症　原虫感染症
真菌感染症　寄生虫感染症
皮膚疾患
母斑　汗疹　湿疹・皮膚炎群　蕁麻疹　伝染性軟属腫
細菌性皮膚疾患　皮膚真菌症</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">呼吸器疾患
先天性喘鳴　上気道の炎症　気管支・肺・胸膜疾患　肺炎
循環器疾患
先天性心疾患　後天性心疾患　心臓律動の異常　循環不全　突然死</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">消化器疾患
口腔疾患　頸部嚢胞・瘻孔　横隔膜の疾患　食道の疾患
胃・十二指腸の疾患　腸の疾患　腹膜・腹壁の疾患
肝臓・胆道の疾患　膵臓疾患　急性乳幼児下痢症、急性胃腸炎</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">血液・造血器疾患
貧血　出血性疾患　顆粒球減少症
悪性新生物
主な悪性新生物　白血病　脳腫瘍　骨の腫瘍</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">腎・泌尿器および生殖器疾患
泌尿・生殖器の奇形　腎糸球体疾患　腎尿細管系疾患
その他の腎疾患　尿路の疾患　生殖器の感染症</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3">神経系疾患
神経系の奇形　けいれん性疾患　中枢神経系　脳性麻痺
神経皮膚症候群　急性神経疾患　小児の言語障害　筋疾患</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（１時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（100％）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">桑野タイ子監修『疾患別小児看護』中央法規
佐地　勉 編著『ナースの小児科学』中外医学社
馬場一雄 監修『小児生理学』へるす出版</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">小児看護学方法論Ⅱ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外 部 講 師（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、子どもの発達段階を考慮した援助について学ぶ。また、小児特有の健康問題・障害の学修を想起し、さらに小児の特徴をふまえ小児におこなわれる検査や処置における看護および基本となる小児看護技術について学ぶ。
本授業を通して
① 健康障害が小児の成長・発達に与える影響や子どもと家族の生活におよぼす影響について理解する。
② 小児期における疾病の経過別にみる小児と家族の看護について理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 健康障害を持つ子どもや家族への看護の基本的な考えについて説明できる。
② 小児特有の検査や処置における看護および基本となる小児看護技術を習得する。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="7">臨床において起こりやすい・直面しやすい状況や特殊な状況の看護</td><td rowspan="7">健康問題および入院が子どもと家族におよぼす影響を理解する。　小児の成長・発達に応じた入院・外来看護・在宅への看護の継続、特殊な状況における医療の連携の必要性について理解する。</td><td colspan="3">健康障害をもつ子どもと家族の看護
病気・障害が子どもと家族に与える影響　子どもの健康問題と看護</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
入院中の子どもと家族の看護
入院環境と看護の役割　入院中の子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="3">外来における子どもと家族の看護
小児科外来の特徴と看護の役割　外来の環境
外来における子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">在宅療養中の子どもと家族の看護
在宅療養中の環境と看護の役割・看護</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">災害時の子どもと家族の看護
被災地の環境と看護の役割・看護</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">障害のある子どもと家族の看護
障害のとらえ方　障害のある子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">子どもの虐待と看護
虐待の分類　児童の虐待の予防と早期発見
子どもとその家族へのアプローチの仕方</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="4">小児における健康問題の経過の特徴と看護</td><td rowspan="4">健康障害の経過に伴う小児と家族の特徴をふまえ、小児の発達段階を考慮した看護について理解する。</td><td colspan="3">慢性期にある子どもと家族の看護
慢性期の特徴　子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="3">急性期にある子どもと家族の看護
急性期の特徴　子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">周手術期の子どもと家族の看護
周手術期の特徴　子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="3">終末期にある子どもと家族の看護
終末期の特徴　子どもの生命・死のとらえ方
子どもと家族の看護　子どもを亡くした家族の看護</td></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="2">基本となる小児看護技術</td><td rowspan="2">健康障害をもつ子どもに必要な援助技術の意義と方法を理解する。</td><td colspan="3">援助関係を形成する上で必要な基礎知識
子どもとの援助関係を形成する技術　家族との援助施術を形成する技術</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="3">コミュニケーション　バイタルサイン　身体計測
検査・処置論　薬物動態と薬用量の決定
治療・処置論　与薬　輸液管理　抑制　検体採取
清潔　呼吸症状の緩和　保育器の管理</td></tr>
</table>

回数	単元	単元目標	授　業　内　容
14			【演習】 衣服の着脱方法（おむつ交換含む）　赤ちゃんの抱き方 身体測定　バイタルサインの測定　輸液療法 採血時の固定法　与薬の方法　保育器の取り扱い方
15		評価（２時間）	
授業形態		講義	
評価方法		筆記試験（70%）　演習課題（30%）	
テキスト		『系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論』医学書院	
参考図書		筒井真由美著『これからの小児看護』南江堂 大塚香・半田浩美編集『小児看護　ビジュアルナーシング』学研 多田羅龍平著『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』金芳堂	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">小児看護学方法論Ⅲ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">若林　理恵子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">健康問題・障害の特徴・経過に伴う子どもと家族の特徴をふまえた看護を学ぶ。また、小児看護事例の展開を通して、小児看護の特徴や小児看護師の果たす役割について総合的に学ぶ。
本授業を通して
① 小児特有の健康問題・障害の特徴を理解し、健康障害のある子どもと家族に必要な援助とその方法について理解する。
② 事例を通して、小児看護に必要な知識と技術を統合する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 健康問題・障害のある子どもと家族に必要な看護について説明できる。
② 小児の特性をふまえた看護過程の展開ができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="10">小児特有の健康問題・障害とその看護</td><td rowspan="10">健康問題・障害のある子どもと家族に必要な看護について理解する。</td><td colspan="3">健康障害をもつ子どもと家族の看護
1. 先天性疾患をもつ子どもと家族の看護
ダウン症候群（21 トリソミー）の子どもと家族の看護
口唇裂・口蓋裂の子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3" rowspan="3">2. 急性期にある子どもと家族の看護
ファロー四徴症の子どもと家族の看護
川崎病（急性熱性皮膚リンパ節症候群）の子どもと家族の看護
気管支喘息の子どもと家族の看護
てんかんの子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3" rowspan="6">3. 慢性期にある子どもと家族の看護
ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護
Ⅰ型糖尿病の子どもと家族の看護
白血病の子どもと家族の看護
脳性麻痺の子どもと家族の看護
発達障害(自閉スペクトラム症、ADHD)の子どもと家族の看護</td></tr>
<tr><td>6</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="4">小児を対象とした看護過程</td><td rowspan="4">小児の特性をふまえた看護過程について修得する。</td><td colspan="3" rowspan="4">【演習】
小児看護過程の展開
疾患の理解（病態生理・治療・検査・看護）
アセスメント（解釈・判断・推理）
全体像（持っている強み）
看護上の問題の明確化
看護の方向性</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td colspan="2">15</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（70%）　レポート（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　小児看護学各論』医学書院
『系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">筒井真由美著『これからの小児看護』南江堂
茎津智子編著『発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程』
医歯薬出版株式会社</td></tr>
</table>

授業科目名	母性看護学概論		担当教員名	外 部 講 師　（助産師） 尾野　あゆ子（助産師）	
実 施 時 期	1 年	後期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	母性看護学は、女性の一生を通して健康の維持・増進・疾病の予防に関する領域である。概論では女性のライフサイクルからみた母性看護の対象を理解し、子どもを生み育てるという母性の役割遂行の視点から、健全な母性への準備・健全な家庭づくり・心身の変化への適応を促すための施策や活動について学ぶ。また、性と生殖に関する健康と権利（リプダクティブ・ヘルス／ライツ）の考え方を基盤に生命の尊厳と価値観について学ぶ。 本授業を通して ① 母性看護の概念や人間の性と生殖について学ぶ。 また、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護領域における対象の特徴を理解し、必要な看護を学ぶ。				
到 達 目 標	① 性・生殖の倫理的課題と性感染症の現状と予防について述べることができる。 ② 母性のライフステージの特性を踏まえて、自らの母性観・父性観を述べることができる。 ③ 母子保健統計結果を読み取り、母子保健施策との関連を述べることができる。 母子保健の関連法規と母子看護での活用の実際を述べることができる。（方法論Ⅰと併せて）				

回数	単元	単元目標	授　業　内　容	担当
1	母性看護の概念と倫理	性と生殖の概念と母性看護の特性について理解する。	母性とは 親になることと母性　母性の身体的・心理的・社会的特徴	外部講師
2			母子関係と家族発達 女性のライフサイクルと家族	
3			セクシュアリティとは リプロダクティブヘルス／ライツ	
4			ヘルスプロモーション 母性看護のあり方 母性看護における倫理	
5	母性看護の変遷と現状	母性の健康に影響を及ぼす因子、母性保健の動向と対策について理解する。	母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の変遷	尾野
6			母子保健統計の動向	
7			母性看護に関する組織と法律 母性看護に関連する施策	
8			母子看護の対象を取り巻く環境	
9	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルの変化と母性の発達過程から対象を理解することができる。	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 生殖器の形態・機能	外部講師
10			女性の身体的特徴、性周期、妊娠の成立 妊娠とは　妊娠の成立　性分化のメカニズム	

回数	単元	単元目標	授　業　内　容	担当
11	女性のライフサイクル各期における看護	母性看護の発達課題と健康上の問題を理解する。そして、生涯にわたる健康な性と生殖に関わる概念から、看護師としてリプロダクティブヘルスケアについて支援する役割を学ぶ。	女性のライフサイクル各期における健康問題と看護（1） 思春期の健康と看護	外部講師
12			女性のライフサイクル各期における健康問題と看護（2） 成熟期の健康と看護	
13			女性のライフサイクル各期における健康問題と看護（3） 更年期・老年期の健康と看護	
14			性意識・性行動の発達　家族計画　受胎調節法 性感染症とその予防	
15			喫煙女性の健康と看護 ＤＶを受けた女性に対する看護 ＨＩＶに感染した女性に対する看護	
16		評価（２時間）		
授業形態		講義		
評価方法		筆記試験（80%） 母性看護の概念と倫理・母性看護の対象理解・女性のライフサイクル各期の看護（50%） 母性看護の変遷と現状（30%） 授業態度・レポート（20%）		
テキスト		『系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論』医学書院		
参考図書		適宜紹介		

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">母性看護学方法論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">尾野　あゆ子（助産師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">女性のライフサイクルの中で、性と生殖機能の顕著な妊娠・出産・産褥の一連の過程をとおし、母子の健康を維持・増進し、新生児を家族の一員として迎え、親として行う適切な援助方法を学ぶ。
母性看護に必要な看護技術を安全に、安楽に、また対象の心に配慮し実施できる方法を学ぶ。
本授業を通して
① 妊娠・分娩・産褥期の母性および新生児の生理的変化を理解する。
② 健全な母性機能を発揮するために必要な知識を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 妊娠～産褥期・新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的変化と健康課題を説明できる。
② 妊娠期・産褥期・新生児期のフィジカルアセスメントに必要な看護技術を実施できる。
③ 妊婦・褥婦・新生児への看護技術を実施できる。
④ 妊婦の診察に必要な看護技術が実施できる。
⑤ 分娩時の呼吸法の誘導方法がわかる。
⑥ モデル人形での新生児の沐浴が実施できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td colspan="2">単元目標</td><td colspan="2">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1
2
3</td><td>妊娠期の看護</td><td colspan="2">妊娠期の生理と正常な妊娠経過について理解し、妊娠が正常に経過するよう妊婦および家族に対する援助技術や方法を学ぶ。</td><td colspan="2">妊娠期の身体的特性
妊娠期の心理・社会的特性
妊婦・胎児のアセスメント
妊婦と家族の看護
妊婦の保健指導　親になるための準備・教育
【演習】レオポルド触診法、子宮底、腹囲測定、妊婦体験</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="3">分娩期の看護</td><td colspan="2" rowspan="3">分娩期の生理と正常な分娩経過について理解し、分娩が正常に経過するよう産婦及び家族に対する援助方法を学ぶ。</td><td colspan="2">分娩期の生理的変化
分娩期の身体的変化</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2" rowspan="2">産婦の心理・社会的変化
産婦・胎児・家族のアセスメント
産婦と家族の看護　分娩各期の看護
記録と出産振り返りの看護
【演習】分娩時の呼吸法・補助動作</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="3">産褥期の看護</td><td colspan="2" rowspan="3">産褥期の生理と正常な産褥経過について理解し、産褥期が正常に経過し、円滑に社会生活に適応できるよう褥婦及び家族に対する援助方法を学ぶ。</td><td colspan="2">産褥期の生理的変化
産褥期の身体的変化　　産褥期の心理・社会的変化
褥婦の健康状態のアセスメント</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2">褥婦と家族の看護
身体機能の回復および進行性変化への看護</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="2">児との関係確立への援助　　育児技術に関する援助
家族関係構築への援助</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="4">新生児の看護</td><td colspan="2" rowspan="2">新生児期の特徴を理解し、早期新生児期を順調に経過できるよう援助技術や方法を学ぶ。</td><td colspan="2">新生児の生理　新生児の特徴（機能）</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="2" rowspan="3">新生児のアセスメント
新生児の診断　　新生児の健康状態　　新生児の看護
【演習】
沐浴、新生児の衣服の着脱、抱っこの仕方、身体計測</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="2">妊娠期から新生児期に準備する物品の実際を知る。</td><td colspan="2">【市場調査】
妊娠期から新生児期に準備する物品の特徴・費用の調査</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（70%）演習参加状況・レポート（30%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論』医学書院</td></tr>
</table>

授業科目名	母性看護学方法論Ⅱ		担当教員名	外部講師（医師）　外部講師（助産師） 外部講師（助産師）外部講師（助産師）	
実施時期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	ハイリスク妊婦・胎児および周産期の母子の異常症状・検査・治療を理解し、さらに、観察の視点と看護の基本を学ぶ。 本授業を通して ① ハイリスク状態にある妊婦・胎児および周産期の母子の異常症状・検査・治療について学ぶ。 ② ハイリスクな状態にある妊婦・新生児の観察・看護のポイントを理解する。				
到達目標	① ハイリスク状態にある妊婦・胎児および周産期の母子の異常症状・検査・治療が説明できる。 ② ハイリスクな状態にある妊婦・新生児の観察・看護のポイントを説明できる。 ③ 正常を逸脱した褥婦の看護のポイントを説明できる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1	母性看護と生命倫理	母性看護と生命倫理について理解する。	母性看護と生命倫理 出生前診断　不妊治療（ＡＩＨ　ＡＩＤ　体外受精　代理母） 精子・卵子の商品化　減数手術　ES　細胞　遺伝相談	外部講師
2	周産期における母子の異常	周産期における母子の異常の症状・検査・治療について理解する。	妊娠の異常 ハイリスク妊娠 生活習慣・心理・社会的因子・体格による影響　妊娠・出産歴 偶発身体疾患 妊娠期の感染症	
3			妊娠疾患 妊娠悪阻　妊娠高血圧症候群　血液型不適合妊娠 多胎妊娠	
4			妊娠持続時間の異常（流産　早産・切迫早産　過期妊娠） 異所性妊娠（卵管妊娠　腹膜（腹腔）妊娠　卵巣妊娠　頸管妊娠）	
5			分娩の異常 産道の異常（骨産道の異常　軟産道の異常） 娩出力の異常（陣痛の異常　腹圧の異常） 胎児の異常による分娩障害 （発育および形態の異常　胎位の異常　胎向・回旋の異常） 胎児付属物の異常 （胎盤の異常　臍帯の異常　卵膜の異常　羊水の異常）	
6			胎児機能不全 分娩時の損傷（子宮破裂　頸管裂傷　会陰裂傷） 分娩第３期および分娩直後の異常（胎盤の娩出遅滞　子宮の異常） 分娩時異常出血（分娩時出血の原因　分娩時出血の鑑別） 産科処置と産科手術 （分娩誘発　会陰切開　骨盤位牽出術　鉗子・吸引分娩　帝王切開）	
7			産褥の異常（子宮復古不全　産褥期の発熱　産褥血栓症　精神障害）	
8			新生児の異常 新生児仮死 分娩外傷（頭部軟骨組織の損傷　胸鎖乳突筋血腫 腕神経叢麻痺顔面神経麻痺　鎖骨骨折　頭蓋内出血） 低出生体重児（特有の疾患　管理・治療　予後） 高ビリルビン血症　新生児出血性疾患	

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th><th>担当</th></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="7">健康障害をもつ妊産褥婦と新生児の看護</td><td rowspan="7">ハイリスクな状態にある人の理解と援助の方法を学ぶ。</td><td rowspan="3">ハイリスク妊婦・胎児への看護</td><td rowspan="3">外部講師</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="2">異常経過のみられる産婦の看護</td><td rowspan="3">外部講師</td></tr>
<tr><td>13</td></tr>
<tr><td>14</td><td>異常のある褥婦の看護</td></tr>
<tr><td>15</td><td>異常のある新生児の看護</td><td>外部講師</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="3">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="3">筆記試験（100%）
母性看護と生命倫理・周産期における母子の異常（50%）
健康障害を持つ妊産婦と新生児の看護（50%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="3">『系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論』　医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="3">適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">母性看護学方法論Ⅲ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">尾野　あゆ子（助産師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">事例を通して産褥０日目から退院までの看護過程をシミュレーションする。ウェルネスの視点で考え変化（進行性変化・退行性変化）を意識して展開し、臨地実習へとつなげる。母性看護学方法論Ⅰでの学びをもとに、妊産褥婦への個別保健指導の指導計画を立案し、シミュレーションを行う。
本授業を通して
① 正常な経過をたどる褥婦・新生児（模擬患者）の看護過程の展開方法を学ぶ。
② 正常経過をたどる褥婦と新生児の事例を通して、アセスメント、看護診断、目標設定、計画立案、評価の看護過程について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 正常な経過をたどる褥婦・新生児（模擬患者）の看護過程を展開できる。
② 妊婦または褥婦への個別指導１項目のシミュレーションができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="8">看護の展開</td><td rowspan="8">褥婦・新生児の看護の特性をふまえた看護過程の展開を習得する。</td><td colspan="3">看護過程の考え方
母性の特徴をふまえた看護過程の考え方</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3" rowspan="5">演習（個人演習）
事例：正常経過をたどる褥婦と新生児の看護
分娩後から産褥３日目までを１日毎に進める
情報収集と整理
情報のアセスメント
産褥３日目
全体像
看護診断
看護計画立案
評価・修正</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3" rowspan="2">妊婦・褥婦への個別指導計画の立案・指導準備</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="4">評価（１時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（50%）レポート・授業態度（50%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">『系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論』医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	精神看護学概論		担当教員名	外部講師（看護師）	
実施時期	2 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の概要と目的	精神の機能と精神のひずみの様相・原因・影響とそれらへの対応などを、心と周囲を取り囲む人との関係、更には社会の対応など幅広い視野で学ぶ。 本授業を通して ① 精神看護を論ずるに必要な基本的知識を修得する。 ② 健全な心の発達とそれに影響を及ぼす要因および精神の危機的状況について理解する。 ③ 地域精神保健活動の概要を知り、看護の役割・機能について理解する。				
到達目標	① 精神の機能および精神の機能が障害されたときに生じる現象や病態像について説明できる。 ② 精神の健康に影響を及ぼす因子について説明できる。 ③ こころの健康問題が患者並びに家族に及ぼす影響について説明できる。 ④ 活用できる社会資源を挙げることができる。 ⑤ 各ライフステージ並びに生活の場における精神保健上の問題を挙げることができる。 ⑥ 精神障害の概念と当事者への処遇の変遷について説明できる。 ⑦ 精神医療の現状と課題を挙げることができる。				

回数	単元	単元目標	授業内容
1	精神看護の基本概念	精神の健康や精神の機能について理解し、精神の機能が障害されたときに生じる現象や病態像について学ぶ。また、ストレスと対処行動について学ぶ。	精神看護学とは、精神看護の対象
2			精神看護学と理論（フロイト・ストレス理論・危機理論）
3			こころの理解①（精神機能）
4			こころの理解②（精神症状概要）
5			精神医療の歴史（西欧）
6	生活の場と精神保健	生活の場における精神保健の問題を知り、その援助方法を理解する。	精神医療の歴史（日本）
7			精神保健（概念・取り組み・生活の場・自殺対策）
8	ライフサイクルとメンタル	各ライフステージにおけるメンタルヘルスの特徴を理解する。	こころの発達（各ライフステージの心の危機）
9	臨床におけるメンタルヘルス	病気に伴う心の健康問題を把握し、患者や患者を支える家族の心の健康について理解する。	心身相関
10			リエゾン精神看護
11			関連法規①（精神保健福祉法）
12	精神障碍者理解		関係法規②（障害者総合支援法・発達障害者総合支援法）
13			精神障害者をめぐる社会の現状 （統計・心神喪失者等医療観察法）
14			精神障害と人間・家族　（共生社会を目指して）
15		評価（２時間）	

授業形態	講義
評価方法	筆記試験 （100%）
テキスト	ナーシング・グラフィカ『情緒発達と精神看護の基本』　メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『精神障害と看護の実践』　メディカ出版
参考図書	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 適宜紹介

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">精神看護学方法論Ⅰ</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外部講師（医師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>2 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>30 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">代表的な精神疾患・精神障害の概要・診断方法・治療方法について学ぶ。
本授業を通して
① 精神疾患に特有な症状や精神領域における検査・治療法および特徴的な精神疾患についての基本的知識を修得する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 精神の障害をもつ人を理解するための基礎的知識として、脳の構造と機能および精神症状・状態像について説明できる。
② 精神科領域における診断並びに検査の特徴と方法について述べられる。
③ 主な精神障害の症状・経過・治療について説明できる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td colspan="3">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="2">脳の機能と構造および精神症状</td><td rowspan="2">精神の障害をもつ人を理解するための基礎的知識として、脳の構造と機能および精神症状・状態像について理解する。</td><td colspan="3">脳の機能と構造</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="3">精神症状および状態像意識障害
知的障害、記憶障害、見当識障害、知覚障害、思考障害、感情障害、自我意識の障害、神経心理学的症状</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="13">精神障害の診断と検査、治療</td><td rowspan="13">精神科領域における検査の特徴と検査方法、治療について理解する。</td><td colspan="3" rowspan="2">検査と治療の概要
検査：神経学的検査、神経学的補助療法、心理検査、乳幼児の精神発達検査、親子関係や家族関係に関する検査、高齢者の知能機能検査
治療：身体療法（薬物療法、電気けいれん療法）
精神療法
（力動的精神療法、行動療法、その他の精神療法）
リハビリテーション療法</td></tr>
<tr><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="3">症状性を含む器質性精神障害①</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="3">症状性を含む器質性精神障害②</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="3">てんかん</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="3">精神作用物質使用による精神および行動の障害</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="3">統合失調症①</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="3">統合失調症②</td></tr>
<tr><td>11</td><td colspan="3">気分（感情）障害</td></tr>
<tr><td>12</td><td colspan="3">神経症性障害、ストレス関連性障害</td></tr>
<tr><td>13</td><td colspan="3">摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害</td></tr>
<tr><td>14</td><td colspan="3">発達障害、小児・思春期で問題になる精神障害</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="3">法制度の変遷、入院形態</td></tr>
<tr><td colspan="2">16</td><td colspan="4">評価（２時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">筆記試験（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">ナーシング・グラフィカ『情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版
ナーシング・グラフィカ『精神障害と看護の実践』メディカ出版</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>

授業科目名	精神看護学方法論Ⅱ		担当教員名	外 部 講 師（看護師） 外 部 講 師（看護師）	
実 施 時 期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	15 時間
授業の 概要と目的	精神に障害を持つ対象者の理解や援助に必要な技術と看護の役割と援助の基本について学ぶ。 本授業を通して ① 精神科看護を展開する上で必要な基本的姿勢を習得する。 ② 精神科看護を展開する上で活用できる技法について理解する。				
到 達 目 標	① 入院から退院にむけて精神科病棟における看護の役割について説明できる。 ② 精神科看護に特徴的な技法の特徴と意義について述べられる。 ③ 患者－看護師間の相互作用を自己評価する視点について述べられる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	精神障害の看護の基本	精神看護における看護師の役割について理解する。	精神科看護における看護師の役割と基本的考え方①（ストレングスモデル）	外部講師
2			精神科看護における看護師の役割と基本的考え方②（セルフケアモデル）	
3	リスクマネジメント		精神科看護における安全管理	
4	精神看護の技術	看護場面に共通な看護技術の特徴と方法について理解する。また、診療の援助の特徴と意義とその看護について理解する。	患者－看護師関係	
5			精神科看護におけるコミュニケーション	外部講師
6			入院環境と治療的アプローチ	
7			プロセスレコード	
8			心理教育・生活技能訓練・レクリエーション	
9	評価（１時間）			

授業形態	講義
評価方法	筆記試験（100%） 精神障害の看護の基本、リスクアセスメント、精神看護の技術(一部)（50%） 精神看護の技術（50%）
テキスト	ナーシング・グラフィカ『情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 ナーシング・グラフィカ『精神障害と看護の実践』メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名	精神看護学方法論Ⅲ		担当教員名	外部講師（看護師） 外部講師（看護師）	
実施時期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	精神に障害を持つ対象の治療経過における援助方法や疾患の回復過程における看護について学ぶ。 本授業を通して ① 精神症状に対する看護について理解する。 ② 精神障害をもつ対象の検査・治療に伴う看護について理解する。 ③ 回復過程を支える社会保健対策の概要や地域精神医療資源について理解する。 ④ 精神障害をもつ患者の特徴をふまえた看護過程を展開するための基礎的能力を養う。				
到達目標	① 精神障害の各症状の特徴と観察の視点およびその看護について説明できる。 ② 検査・治療時の援助の特徴と意義、その看護について述べられる。 ③ 入院から退院に至るまでの看護介入の特徴と意義について説明できる。 ④ 精神障害をもつ対象の看護上の問題を抽出できる。 ⑤ 精神障害をもつ対象の問題解決のための計画立案ができる。 ⑥ 精神障害をもつ対象の退院支援のための方法について述べられる。				

回数	単元	単元目標	授業内容	担当
1	精神症状と看護	精神障害の各症状の特徴と観察の視点およびその看護について理解する。	不安、抑うつ状態、精神運動興奮状態にある患者の看護	外部講師
2			拒絶、自閉、昏迷、幻覚・妄想状態にある患者の看護	
3			せん妄、不眠、強迫症状、自傷、心気傾向のある患者の看護	
4	診療と看護	検査・治療時の援助の特徴と意義を理解し、その看護について理解する。	検査、電気けいれん療法を受ける患者の看護	
5			薬物療法を受ける患者の看護	
6			精神療法、社会療法を受ける患者の看護	
7	回復過程と看護	精神障害について理解し、入院治療に関して考慮すべき視点を明らかにする。また、入院から退院に至るまでの看護について理解する。	入院から退院までの経過	
8	看護の実践と多職種連携	精神障害をもつ患者の特性をふまえた看護過程の展開するための基礎的技術を修得する。	演習事例：統合失調症患アセスメントの視点について	外部講師
9			ゴードンの機能健康パターンを用いて情報整理とアセスメント	
10				
11			統合全体像（全体関連図　全体像の成文化）患者の強み 長期目標の設定	
12				
13			看護問題の設定	
14			看護計画（短期目標・具体的な看護活動）の立案	
15			多職種連携	

16	評価（２時間）
授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%） 　精神症状と看護、診療と看護、回復過程と看護（50%） 　看護の実践と多職種連携（50%）
テキスト	ナーシング・グラフィカ『精神障害と看護の実践』メディカ出版
参考図書	適宜紹介

授業科目名	看護安全学		担当教員名	外 部 講 師（看護師） 杉原　雅子（看護師）	
実 施 時 期	2 年	後 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	我が国における医療安全対策や医療現場で取り組まれている安全対策の概略、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方、看護学生としての医療事故防止対策について学ぶ。 本授業を通して ① 医療安全に対する基本的な考え方、取り組みの概略を理解する。 ② 医療事故防止に向けてはチームで取り組む必要性があること、その中での自らの責任と役割を理解する。				
到 達 目 標	① 対象の権利を尊重し、安全を保障するための看護者としての責任と義務について説明できる。 ② 医療安全対策の法的位置づけ・定義・分類および医療の質の評価の必要性を説明できる。 ③ 事故発生のメカニズムについて理解し、防止対策の考え方が説明できる。 ④ 医療法の中で定められている医療機関における安全対策、事故の原因と対策、実施について説明できる。				

回数	単元	単元目標	授 業 内 容	担当
1	医療安全と看護	対象の権利を尊重し、安全を保障するための看護者としての責任と義務について説明できる。	看護職の法的規定	杉原
2			国・看護職能団体の取り組み	
3	医療安全と医療の質	医療安全対策の法的位置づけ・定義・分類および医療の質の評価の必要性を説明できる。	看護行為における医療安全	
4			医療事故等の定義・分類	
5	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント	事故発生のメカニズムについて理解し、防止対策の考え方が説明できる。	事故発生のメカニズム	外部講師
6			リスクマネジメント	
7			事故分析・事故対策	
8			安全文化の醸成、チームSTEPS	
9			組織の取り組み、安全対策	
10			初期対応の考え方、方法	
11			事故の原因と対策の検討、事故後の対応	
12	医療機関と安全対策	医療法の中で定められている医療機関における安全対策、事故の原因と対策、実施について説明できる。	看護業務上の危険と防止策	杉原
13			看護学生の実習と安全	
14			実習における事故の法的責任と補償	
15			看護技術のリスクと安全、指導者の役割	
16		評価（２時間）		

授業形態	講義　演習
評価方法	筆記試験（100%） 医療安全と看護・医療の質・安全対策（50%） 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント（50%）
テキスト	『ナーシング・グラフィカ　医療安全』　メディカ出版
参考図書	適宜紹介

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">災害看護</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外部講師（助産師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>3 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">日本各地で頻発する災害の現状を知り、被災者の生活に医療がどう関わるのかを学ぶ。
本授業を通して
① 災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係し、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。
② 社会における看護の役割を果たすために必要な災害各期の看護活動を理解する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 災害および災害看護、基本対策・支援体制について説明できる。
② 被災者・援助者の心理、災害各期の具体的な看護実践について説明できる。
③ 実際の支援活動から災害状況や活動内容を説明できる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td>単元目標</td><td>授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td>災害の基礎知識</td><td>災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解する。</td><td>災害看護の歴史、現状、課題
災害・災害看護の歴史、定義
災害の種類と災害サイクル
災害種類別の疾病構造　　災害関連死</td></tr>
<tr><td>2</td><td>災害の発生と対応</td><td>災害関連の基本対策や国･地方自治体と個人･民間団体との支援体制を理解する。</td><td>災害発生時の社会の対応や仕組み
災害時要援護者
災害における連携
災害に関する制度
災害情報と伝達の仕組み
災害関係各機関の支援体制</td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="5">災害時の支援活動</td><td>災害時のトリアージ及び治療･運搬について理解する。</td><td>災害看護に必要な技術
トリアージ
治療・運搬</td></tr>
<tr><td>4</td><td>災害各期における看護活動の特徴や活動場所の違いによる看護の役割について理解する。</td><td>災害各期の看護活動
災害時のボランティア活動
災害サイクル各期における看護活動
在宅療養・避難所・応急仮設住宅等における看護</td></tr>
<tr><td>5</td><td>病院における災害の備えの重要性を理解し、災害時における倫理的判断が述べられる。</td><td>病院における災害看護
災害看護における倫理・教育・理論</td></tr>
<tr><td>6</td><td>災害時の被災者及び援助者の心理およびケアを理解する。</td><td>被災者・援助者のストレスとこころのケア</td></tr>
<tr><td>7</td><td>災害時における人々の反応と生活に及ぼす影響や災害時の人々のニーズに対する看護支援の方法を理解する。</td><td>各論
地域看護と災害　母性看護と災害　小児看護と災害
高齢者看護と災害　精神看護と災害
慢性期看護と災害　　感染看護と災害</td></tr>
<tr><td colspan="2">8</td><td colspan="2">評価（1時間）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>筆記試験(100%)</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td>『系統看護学講座　　専門分野　災害看護学・国際看護学』医学書院</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>適宜紹介</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">看護管理</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">外 部 講 師（看護師）
杉原　雅子（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>3 年</td><td>前 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">看護を実践するために看護管理、教育、倫理、制度の必要性を学ぶ。
本授業を通して
① よりよい看護の提供を考察するために、看護の提供のしくみおよび、看護の提供者の資質向上の取り組みの現状を理解する。
② 国際社会における健康問題と、国際協力の今後の課題について考察する。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 看護サービスの管理について、その対象や組織について説明できる。
② 看護サービスの提供者の資質の向上について実態と課題を明らかにできる。
③ 看護サービスにおける倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを習得する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>回数</th><th>単元</th><th>単元目標</th><th>授 業 内 容</th><th>担当</th></tr>
<tr><td>1</td><td>看護サービスの管理</td><td>看護サービスの管理について、その対象や組織について説明できる。</td><td>看護サービスの管理とは</td><td rowspan="6">外部講師</td></tr>
<tr><td>2</td><td>看護職の教育</td><td>看護サービスの提供者の資質の向上について実態と課題を明らかにできる。</td><td>看護基礎教育・継続教育</td></tr>
<tr><td>3</td><td>看護職の倫理</td><td rowspan="2">看護サービスにおける倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みを習得する。</td><td>倫理的課題への対応</td></tr>
<tr><td>4</td><td>看護をめぐる制度と政策</td><td>倫理的な看護実践を行うために必要なこと</td></tr>
<tr><td>5</td><td>看護制度と看護政策</td><td>看護制度と看護政策の関連を理解する。</td><td>看護制度-看護サービスと法制度</td></tr>
<tr><td>6</td><td>看護と経済</td><td>看護と経済の関連の仕組みを理解する。</td><td>看護サービスと経済のしくみ
看護の人員配置基準と看護サービスの評価</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="2">看護の国際協力</td><td rowspan="2">保健医療・看護における国際化について理解する。</td><td>国際交流および国際協力の仕組み異文化の理解</td><td rowspan="2">杉原</td></tr>
<tr><td>8</td><td>国際看護活動の展開</td></tr>
<tr><td colspan="2">9</td><td colspan="3">評価（1時間）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>授業形態</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>筆記試験（100%）
看護管理（75%）　国際看護（25%）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td>『ナーシング・グラフィカ　看護管理』　メディカ出版
『系統看護学講座　専門分野　災害看護学・国際看護学』　医学書院</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>『国民衛生の動向』厚生労働統計協会</td></tr>
</table>

授業科目名	看護研究		担当教員名	外 部 講 師（看護師） 石黒　範子　（看護師）	
実 施 時 期	3 年	前 期	単位・時間	1 単位	30 時間
授業の 概要と目的	看護研究の過程（研究課題の発見、研究デザイン、データ分析、研究結果の発表）を学ぶ。 実習で取り組んだ事例をケーススタディとしてまとめ、自己の看護観をレポートする。 本授業を通して ① 看護研究の過程を学び、目的が患者への効果と基礎知識の蓄積であることを理解する。				
到 達 目 標	① 日々発展・変化する看護の分野における研究の必要性を説明できる。 ② 看護研究の一連の過程を説明できる。 ③ 研究におけるプレゼンテーションができる。				

回数	単元	授 業 内 容	担当
1	看護研究の基礎知識	看護における研究の役割	外部講師
2		研究過程の概観	
3		看護研究の始め方　－リサーチクエスチョン	
4		情報の検索と吟味　－文献レビューとその方法	
5		文献クリティーク	
6		研究における倫理的配慮	
7		研究デザイン	
8			
9		データの収集	
10			
11		データの分析	
12			
13		研究を伝える	
14	ケーススタディ	【演習】 ケーススタディレポート、看護観レポートの作成	石黒
15			
16		評価（２時間）	
授業形態		講義　演習	
評価方法		筆記試験（60%）　レポート（40%：ケーススタディ(30%)、看護観(10%)）	
テキスト		『系統看護学講座　別巻　看護研究』医学書院	
参考図書		適宜紹介	

<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="2">臨床看護の実践</td><td>担当教員名</td><td colspan="2">橋本　武憲（看護師）</td></tr>
<tr><td>実 施 時 期</td><td>3 年</td><td>後 期</td><td>単位・時間</td><td>1 単位</td><td>15 時間</td></tr>
<tr><td>授業の
概要と目的</td><td colspan="5">臨床場面で看護者としての判断や技術の統合ができるための実践について学ぶ。
本授業を通して
① 複数患者を受けもち、優先順位を考えた看護計画および自己の行動計画を立案し、実施する。
② 看護実践中に起こる割り込み状況に対し、自己の対応能力を認識した上で対処方法を判断する。
③ 複数患者への看護実践を振り返り、割り込み状況への対応を含め、どうすればよかったか、患者、看護業務、自己の臨床実践力などの視点から分析的に考察する。
④ 自己の臨床実践力に応じ、チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護の実践を試みる。</td></tr>
<tr><td>到 達 目 標</td><td colspan="5">① 臨床における看護の実践について理解する。
② 事例のアセスメント・看護問題の明確化・看護計画を立案し、活動計画が実施できる。
③ 割り込み状況への対応についての学びを共有することができる。
④ 今後の課題を明確にすることができる。</td></tr>
<tr><td>回数</td><td>単元</td><td colspan="2">単元目標</td><td colspan="2">授 業 内 容</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="3">臨床における看護実践の過程</td><td colspan="2" rowspan="2">臨床における看護の実践について理解する。</td><td colspan="2" rowspan="2">看護実践の構造
看護実践を支えるもの</td></tr>
<tr><td>2</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">事例のアセスメント・看護問題の明確化・看護計画の立案ができる。</td><td colspan="2">事例の看護過程
アセスメント・看護問題の明確化・看護計画立案</td></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="4">多重課題への対応</td><td colspan="2" rowspan="3">多重課題への対応ができる。</td><td colspan="2" rowspan="2">臨床看護場面と対応</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">【演習】
① 割り込み状況への対応
② 割り込み状況での対応のリフレクション</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="2">臨床看護実践について学びを共有し、自己の課題を明確にすることができる。</td><td colspan="2">事例学習・演習のふり返り
臨床看護実践における自己の課題の明確化</td></tr>
<tr><td colspan="2">8</td><td colspan="4">評価（1時間）</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業形態</td><td colspan="4">講義　演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価方法</td><td colspan="4">レポート（100%）</td></tr>
<tr><td colspan="2">テキスト</td><td colspan="4">資料配布</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介</td></tr>
</table>